
公開シンポジウム「防災における文化の役割—国際防災協力と災害文化の醸成—」

日時：2013年5月25日（土）13：30～17：30

場所：立教大学池袋キャンパス 14号館5階D501教室

弘末：ご発表者1名、ご報告者3名、コメンテーター3名の皆様をお招きいたしまして、5時30分までシンポジウムを開催させていただくことになりました。

司会進行役を仰せつかりました私は、この研究所の所員でありかつ文学部史学科に属しております弘末雅士と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、最初にアジア地域研究所所長の上田さんより開会の挨拶をいただきたいと思えます。なお本日は、ご発表者、ご報告者、司会あるいはディスカッションのモデレーター、いずれも「さん」でお呼びすることになっておりますので、どうぞ会場の皆様もご協力のほど、よろしく願い申し上げます。それでは、上田さんよろしく願いいたします。

上田：今日はこのお天気のいい中、外に遊びに行った方がいいような中、こういう暗い教室の方へお越しただいてどうもありがとうございます。アジア地域研究所の所長を務めます上田と申します。文学部で中国の歴史を一応専門にしている者です。

3.11の震災があった直後から1年ぐらいの間でしょうか、大学の中でもいろいろ会議とかそういったときに、必ず3.11の被災者、遺族、その他に思いを馳せるというようなところから話しを始めるということがある種慣例になっていたかのように思いますが、最近になりますと、そういうこともほとんど行われなくなったというような感じがします。震災の直後には、皆さん心はずしっと思っていたかと思いますが、それから年を重ねるとやはり忘れてしまう。大切だと思いつつ、ついついそれを忙しさの中に置いてきてしまうというようなことがあるかと思えます。

今回のテーマは、その震災の記憶、文化というものを通じてどのように伝承していくのか、忘れないのか、そしてそれを次にどう生かしていくのかということになります。これは、未来へ向けて現時点からどう考えて行くかというようなテーマになるかと思えます。そして、それは単に東日本だけではなくて、関西の震災そしてスマトラの震災、中国では四川省の大地震もありました。そういったことをいろいろつなぎ、思いを馳せ、そしてその文化を学び合っていくということが必要だと思います。その1つの手がかりを得るシンポジウムになればありがたいと思えます。

今回、忙しい中お集まりいただきありがとうございます。簡単ではありますが、私の方からの挨拶とさせていただきます。